

# 現代に甦る歴史絵巻 豪華絢爛山車二十台



新庄まつりは、藩政時代の宝暦六年（二七五六）、藩主戸沢正謙が、前年の大凶作でうちひしがれている領民に活気と希望を持たせ、豊作を祈願するために、戸沢氏の氏神である城内天満宮の「新祭」を領民あげて行ったのが起源とされています。

まつりは、古式ゆかしい神輿渡御行列、歌舞伎、歴史物語の名場面を見事に表現した豪華絢爛な二十台の山車行列など藩政時代をしのぼせる歴史絵巻が繰り広げられます。また、山車行列を盛り上げるお囃子も見どころの一つです。

二十四日の宵まつりは、山車に照明が入り、光と影が織り成す幻想的な山車行列が行われます。

二十五日の本まつりは、総勢二百名の神輿渡御行列が新庄城址にある戸沢神社を出発します。足軽の息のあった足さばきや傘回しの妙技など数多くの見どころがあります。神輿渡御行列に続く山車は、夏の日差しを浴びて鮮烈な色彩を放ち、その豪華さと迫力は圧巻です。また、今年は、「新庄まつり二六〇年記念山車行列」の夜間運行も行われます。

最終日の後まつりは、新庄まつり交流事業として「燦踊祭」が行われます。岩手県盛岡市のさんさ踊りなど各地の祭りを見ることが出来ます。また、新庄北部に古くから伝わる五穀豊穡を祈願する全国的にも珍しいカモシカを模した、県無形民俗文化財の萩野鹿子踊と仁田山鹿子踊を見ることが出来ます。

新庄まつりの最後は、飾り山車として街中に二十台全ての山車が集結し、新庄の夏は、まつりの幻想と興奮でファイナールを迎えます。

※ユネスコ無形文化遺産候補

平成二十六年、新庄まつりの山車行事を含む日本の山・鉾・屋台行事（全国三十三件）がユネスコ無形文化遺産の候補として国連教育科学文化機関（ユネスコ）に一括提案されることが決定しました。山形県内では、新庄まつりのみ候補となっています。審議は、平成二十八年に行われる予定です。